

特別天然記念物・北限のメヒルギ観察ゾーン

鹿児島市教育委員会管理部文化課 主任指導主事 佐々木幸男

1. はじめに

鹿児島市は、九州南端の薩摩半島の中央東部にあり、鹿児島湾に面し、東経130度23分から130度43分、北緯31度17分から31度45分に位置し、古くから広域的な行政、業務、商業の機能が集積しています。市街地は、鹿児島湾に流入している甲突川など7つの中小河川により形成された小平野部にあり、その周辺は、海拔100mから300mの丘陵地帯（シラス台地）となっています。

60万都市鹿児島市の眼前に雄大にそびえ、朝夕七色に姿を変える桜島、その美しさを一層際立たせている悠久の火山活動が生み出した山並みと波静かな鹿児島湾。この天の恵みあふれる地に暮らしてきた私たちの先人は、古から独自の文化を保ちながら進取の気性に富み、明治維新など歴史の節目節目に名を残してきました。本市では、これら、自然と歴史・文化に誇りを持ち、「人とみどりが輝くまち・かごしま」の創造に向けて取り組んでいます。

2. 北限のメヒルギについて

今回紹介する国の特別天然記念物「喜入のリュウキュウコウガイ産地」は、メヒルギの自生北限地です。

熱帯及び亜熱帯の泥土の堆積する波の穏やかな入り江や河口の淡水と海水の混じり合う潮間帯には、マングローブとよばれる森林が発達します。メヒルギは、マングローブを構成するヒルギ科の一種で、果実が「琉球のこうがい（かんざし）」に似ているところからリュウキュウコウガイと名付けられましたが、現在は一般的にはメヒルギと呼ばれています。



リュウキュウコウガイの語源となった果実

メヒルギの種子は果実の中で発芽し、母樹から養分をとって成長し、一定の大きさになると地上に落

下することから胎生植物といわれます。潮流によって移動してくぼみ等に定着すると発根して立ち上がり、やがて幼苗になります。メヒルギの自然分布は、東南アジアから南西諸島（奄美大島、屋久島、種子島等を含む）および薩摩半島までで、南西諸島のメヒルギは高さ4～7m程度に成長しますが、喜入は成長しても高さ2m程度です。

当地は自生北限地帯として大正10年3月、国の天然記念物に、また昭和27年3月には国の特別天然記念物として文化財指定され、大切に保護してきました。

ところが、平成17年7月末の当地での豪雨の際に、上流で行われていた農道工事等のシラスが指定地内を流下する柳ヶ谷川を通して、指定地内に入り、堆積しました。このことにより、指定地内の南半分の約3割が枯死するという被害を受けてしまいました。

被害後、すぐに堆積したシラスを除去し、原状復旧を行うとともに、メヒルギの水枯れを防ぐために、緊急に川の水を指定地内のメヒルギに散水する設備を設置しました。また、被害の拡大を防ぎメヒルギの再生を図るために、生息地の環境改善を目指すとともに、周辺整備により、北限のメヒルギを観察できる観察ゾーンを設置することとし、19年度から取り組んできました。

19年度に、メヒルギの再生のための方策と整備活用について検討し、保護増殖のためのガイドラインの作成を行う「メヒルギ再生整備活用検討委員会」を設置しました。これまで検討委員会の意見を基に、保護増殖のための手立てを検討し、対策を実施してきました。



国道からの危険な見学

3. 施設説明

鹿児島市としましては、特別天然記念物のメヒルギの再生に向けた保護増殖を進める一方、動物園等で飼育しているものを除いた市内唯一の特別天然記念物を是非とも市民に身近で接して欲しいとも考えました。しかし、当該地は国道226号と鹿児島湾に挟まれた位置にあり、駐車スペースがないことから、通過する自動車の車窓から見学するか、降り立つことができたとしても、たくさんの通過車両が行き交う危険な状況で見学することしかできません。そこで、隣接民有地を購入し、駐車場と観察ゾーンを設置することとしました。

施設の概要としては、駐車場については、大型バス1台、普通車6台程度が駐車できる駐車スペースを設置しました。そして、観察ゾーンについては、「特別天然記念物・北限のメヒルギ観察ゾーン」(ボードウォーク)を(財)リバーフロント整備センターが(財)日本宝くじ協会の助成を受けて行っている「水辺施設の設置事業」として整備していただきました。



新たに整備した駐車場



特別天然記念物・北限のメヒルギ観察ゾーン

「特別天然記念物・北限のメヒルギ観察ゾーン」はボードウォーク(木製デッキ)で長さ約34m、幅1.5m、

車椅子でも入ることができます。これまで、安全に見学することができなかったメヒルギですが、指定地内に足を踏み込むことなく、独特な生態や生息状況を見学することができるようになりました。



間近でメヒルギを観察する市民

4. 整備効果

「喜入のリュウキュウコウガイ産地」は被害を受けましたが、鹿児島市としましては、専門家の指導を受けながらメヒルギの保護増殖を目指して努力をしております。

今回、(財)リバーフロント整備センターのご協力をいただき、水辺施設「特別天然記念物・北限のメヒルギ観察ゾーン」が完成しました。淡水と海水の混じり合う汽水域に生息するという独特の生態を持つ市内唯一の特別天然記念物・北限のメヒルギを観察できる施設の完成です。23年3月には九州新幹線鹿児島ルートの特急列車の全線開業も迎えます。今後、市民はもちろん観光客にも間近で見学していただき、学習の場としてはもちろん、憩いの場としても活用していただけるよう、施設の維持管理に努めてまいります。



遠く桜島も望めるメヒルギ観察ゾーン